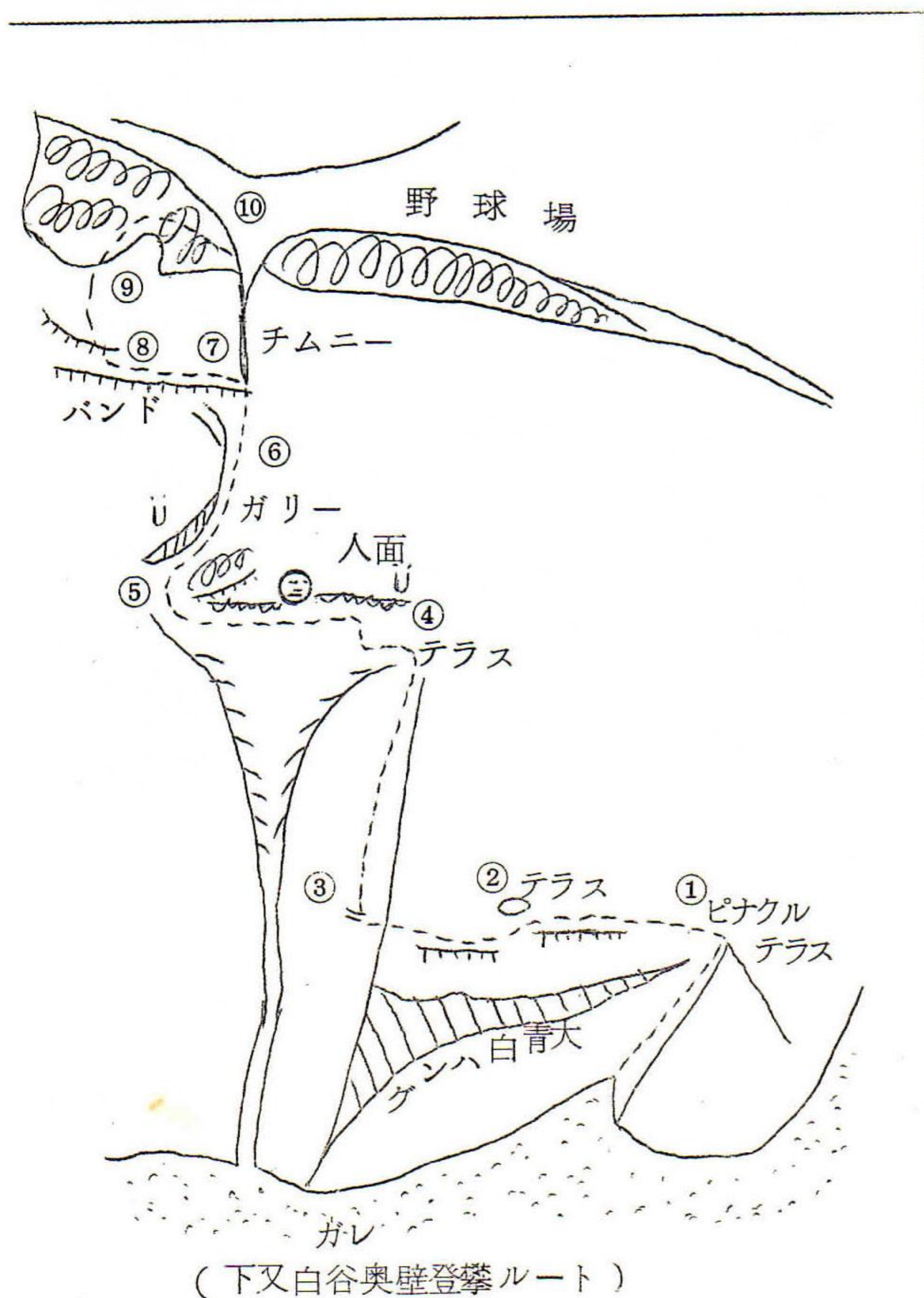


逆層であった。とりわけ最後にルートとした場所は1本のリスもないスラブと、その上のハングしたスラブにはばまれ、せっかく2つのハングを登りスラブに着いたのに、下らなければならなかった。あれこれと2時間近い時間を無駄にしてしまったので、残念だけれども、左上の灌木帯にエスケープする事にした。灌木のあるハングを登り、バンドをトラバースして灌木帯に突入した。灌木帯といっても、部分的に岳樺が生えた70度位の斜度をもつ草付だった。80メートル程直上すると、僕等が「野球場」と呼ぶ、幅が30メートル程あるバンドに立てた。ここからの壁の上は、ただのガレ場となって明神岳直下に突き上げている。僕等の登攀は事実上終わった。沢身におり立ち、身体中についた金物をほうり出して、水筒の水を飲みほした。「僕等で完登したんだね。」場遅れの握手と一緒に、これからもこの下又白を研究しようという約束をかわした。徳沢のキャンプ場から上る煙をながめながら休憩をしていると、サポートの深沢さん、高木さんからコールがかかる。もう夕暮だった。完登した喜びを胸に、重い腰を上げた。

(山田裕紀 記)



ルート概念

- ① 取付ピナクルテラス
- ①-② 20m バンド・トラバース
- ② 草付3人用テラス
- ②-③ 20m バンド・トラバース
- ③-④ 20m フェース
- ④ 2人用テラス
- ④-⑤ 40m バンド・トラバース
- ⑤ 灌木大テラス
- ⑤-⑥ 30m 凹角からスラブ
- ⑥ チムニー下大テラス
- ⑥-⑦ 20m バンド・トラバース
- ⑦-⑧ 20m バンド・トラバース
- ⑧-⑨ 40m バンドから灌木帯
- ⑨-⑩ 80m 灌木帯
- ⑩ 野球場

TIME

- ① 取付 9:35
- ④のテラス 10:05
- ⑤のテラス 11:05~12:20
(途中ルート工作する)
- ⑩ 終了点 16:30